

実施計画事業名		食の創出推進事業		評価対象年度	平成 22 年度				
評価担当部署		建設産業部 観光交流課		課長(主幹)名	齊藤 正良				
総合計画体系	分野	5	産業振興						
	政策	4	地域資源の再発見・世界への発信						
	施策	1	観光を核とした産業振興を図ります						
	関連施策								
現状と課題	稚内には豊富な食材があるものの、稚内ならではの食の魅力が発信できずに来たが、沖合底引き船の主要魚種でありながら、ハマチ等の養殖魚の飼料というイメージが強い「おおなご」を近年、稚内特有の食材として売り出す活動が有志により取り組まれてきた。本市としては平成19年度から関係者とともに「稚内・食の委員会」を立ち上げ、観光の起爆剤として、稚内ならではの食材を使った新しい「名物料理」の創出のため研究を重ねてきた。								
目的	本市の観光地としての魅力を高める								
5ヶ年開の	①「稚内・食の委員会」で研究してきた“新たな稚内ならではの料理”を具体的なメニューとして確立するとともに、提供ルートを構築する ②宿泊施設や飲食店などで、おおなごをはじめ、稚内ならではの食材を使った料理が提供されるよう、関連事業所等と連携を図っていく。								
成果指標	名称		単位			21 年度	22 年度	25 年度	
	ネオすりみ飲食店食数		食		目標	6,500	7,800	7,800	
説明	「稚内・食の委員会」で取り組む“ネオすりみ”の飲食店提供食数				実績	6,000	3,700		
活動指標	名称		単位			21 年度	22 年度	25 年度	
	ネオすりみを提供する飲食店の数		店		目標	9	9	9	
	説明	”ネオすりみ”を料理として提供する飲食店の数				実績	7	5	
					目標	-	-	-	
	説明					実績			
					目標	-	-	-	
	説明					実績			
					目標	-	-	-	
説明					実績				
事業費の実績			単位	21 年度 (決算)	22 年度 (評価年度決算見込)	23 年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	1,000	910	1,000			
	国庫支出金		千円	0	0	0			
	道支出金		千円	0	0	0			
	起債		千円	0	0	0			
	その他		千円	0	0	0			
	一般財源		千円	1,000	910	1,000			
	この事業にかかる職員数		人/年	0.70	0.29	0.29			
人件費(B)		千円	4,848	1,969	1,969				
計(A+B)		千円	5,848	2,879	2,969				
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 平成21年6月10日販売開始、3月末までに6,000食を売り上げた。								

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	c a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する> 「ネオすり身・丼」「ネオすり身・ラーメン」という商品開発は目標達成できたが、市場での商品人気はふるわない現状にある。
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	b a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 商品そのものの開発手法、内容を見直す必要がある。
コ ス ト 効 率	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか
	b a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> ネオすり身をホテルや旅館等での提供や地域食材としての小売販売も検討する必要がある。
コ ス ト 効 率	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	C 見直しが急務
	<A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 新たな食の魅力創出について、地元でとれる優れた食材のブランド化を進める「稚内ブランド創出事業」と連携を図り進める。

【2次評価】

成 果	c	細事業の構成	b	細事業の進め方	b	コスト効率	a
総 合 評 価	C 見直しが急務 <2次評価者の視点からコメントを記入する> ネオすり身に関しては、民間主導で今後の方向性について検討していく必要がある。 併せて、食の委員会についても今後の方向性について再度整理すること。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--